

# 落ち葉や土の中の小動物

【 小学校3年 「身の回りの生物」 】 【 小学校6年 「生物と環境」 】

## 1 ねらい

校庭の草置き場では、地表や地中にすむ様々な小動物が簡単に採取できる。落ち葉や土の中の小動物を観察することで、植物と動物、動物と動物、自然と生き物のつながりに気づく。

ルーペを工夫して使うと、虫が苦手な児童も、小動物の体のつくりや動きなどを怖がらずに観察できる。

## 2 準備するもの

- ・ピンセット ・上質紙などの白い紙 ・新聞紙 ・移植ごて ・バケツやバット ・ルーペ
- ・透明なビニルホース ・シャーレ ・ビーカーや紙コップ ・観察器

## 3 観察の方法

(1) 校庭の枯れ草置き場などから小動物を採取してくる。移植ごてなどで枯れ草や土をバケツやバットに入れ教室に持ち帰る。

(2) 机に新聞紙と白い紙をしいて、採取してきた枯れ葉や土を少量ずつ紙の上に広げ、ピンセットで中の小動物を採取し紙コップなどに入れる。(ハンドソーティング法)

(3) 何種類か採取できたら、虫眼鏡や繰り出しルーペなどで観察し、スケッチする。また、足の数や動き、体の特徴を記録する。この時、観察器を使うと、効果的な観察ができる。



## 4 観察結果

落ち葉や土の中の小動物は体長によって以下の3タイプに分けられる。

- ・大型土壌動物 (2mm 以上)
- ・中型土壌動物 (0.2mm ~2mm)
- ・小型土壌動物 (0.2mm 以下)

大型の土壌動物は肉眼で容易に見つけることができる。手で土をより分けて動物を見つけるハンドソーティング法で容易に採取できる。中型、小型の土壌動物は、肉眼で見つけ出すのは大変なので、ツルグレン装置を使って採集し観察する。